Economic Indicators

発表日:2023 年 3 月 31 日(金)

鉱工業生産(2023 年 2 月)

～単月では事前予想を上回るも均せば弱含み～

第一生命経済研究所　経済調査部
副主任エコノミスト　大柴　千智　(TEL:03-5221-4525)

(単位:%)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
22年	1月	▲ 2.4	▲ 0.8	▲ 1.5	▲ 1.3	▲ 0.7	4.7	1.4	5.2	1.6	6.9	▲ 6.2	▲ 5.6
	2月	2.0	0.5	0.0	▲ 1.5	2.1	7.1	2.0	7.5	▲ 5.1	0.8	1.4	▲ 3.7
	3月	0.3	▲ 1.7	0.6	▲ 2.4	▲ 0.4	6.8	0.6	10.5	1.7	5.5	▲ 1.5	▲ 6.6
	4月	▲ 1.5	▲ 4.9	▲ 0.3	▲ 4.6	▲ 2.3	4.1	▲ 2.8	8.4	1.9	▲ 2.5	0.7	▲ 5.8
	5月	▲ 7.5	▲ 3.1	▲ 4.1	▲ 3.1	▲ 0.9	3.8	3.1	7.9	▲ 4.2	▲ 1.9	▲ 4.6	▲ 3.4
	6月	9.2	▲ 2.8	5.0	▲ 2.9	1.9	4.2	▲ 1.4	7.8	8.7	1.5	4.0	▲ 3.6
	7月	0.8	▲ 2.0	1.2	▲ 2.1	0.6	5.1	3.8	10.5	6.9	8.0	2.0	▲ 2.5
	8月	3.4	5.8	2.8	5.9	0.7	5.9	▲ 3.0	3.6	4.2	17.8	4.9	9.8
	9月	▲ 1.7	9.6	▲ 2.5	9.4	2.9	6.1	5.1	5.4	▲ 3.5	13.4	▲ 4.2	19.8
	10月	▲ 3.2	3.0	▲ 1.7	4.1	▲ 0.5	5.0	▲ 4.5	2.8	▲ 4.2	9.1	0.1	7.1
	11月	0.2	▲ 0.9	▲ 0.1	▲ 0.5	0.3	3.8	3.3	6.9	▲ 3.6	4.9	2.5	1.8
	12月	0.3	▲ 2.4	▲ 0.9	▲ 3.1	▲ 0.4	3.3	1.5	10.1	1.9	3.6	2.7	▲ 0.3
23年	1月	▲ 5.3	▲ 3.1	▲ 3.7	▲ 3.0	▲ 1.0	3.1	2.8	10.0	▲ 7.9	▲ 3.2	▲ 6.4	1.3
	2月	4.5	▲ 0.6	3.6	0.6	1.4	2.3	▲ 1.6	5.4	2.9	3.9	3.5	4.1
	3月	2.3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	4月	4.4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

(出所)　経済産業省「鉱工業指数」
(注)23年3月、4月は、製造工業生産予測調査の数値

○事前予想を上回るも、春節の影響を均せば弱含み

経済産業省から公表された 23 年 2 月の鉱工業生産は、前月比＋4.5%と 2 ヶ月ぶりの上昇となった。事前の市場予想（同＋2.7%）を大きく上回ったが、1 月の大幅低下（前月比▲5.3%）分は取り戻せていない。

また、アジア圏における春節の時期が昨年と異なった影響で、1 月の生産は実勢よりも下振れた一方、2 月の生産は実勢よりも上振れている可能性に注意が必要だ。1-2 月平均でみると、10-12 月期対比で▲2.9%pt 下回っており、足元の生産は弱含みが続いていることが確認できる。1-2 月平均（10-12 月期対比）を業種別にみると、ほとんどの業種が落ち込んでいるが、特に生産用機械（▲12.8%）や汎用機械（▲3.1%）、輸送用機械（▲3.1%）といった資本財や、電子部品・デバイス（▲1.1%）で低下が続いている。

同時に公表された 3 月、4 月の生産予測指数では増加が見込まれるものの、景気減速懸念が根強い世界情勢を踏まえると先行きは楽観視できないだろう。

○３月はさらなる下振れに注意

同時に公表された製造工業予測指数は、3 月が前月比＋2.3%、4 月が同＋4.4%となった。3 月、4 月ともに持ち直しが見込まれているが、予測指数には上振れバイアスがあることに注意が必要である。こうしたバイアスを考慮した経済産業省の補正試算値では、3 月は前月比▲0.3%の小幅低下が見込まれる。また、筆者は 3 月の生産はさらに下振れる可能性もあるとみている。上述の通り 2 月は春節の影響で実勢より上振れている可能性が高く、3 月は 2 月の上昇から反動が出やすいと考えておくべ

きだろう。製造業の景況感は、欧米諸国を中心とした世界経済の減速による下押しで悪化しつつあり、3 月の生産はさらに下振れる可能性が十分ありそうだ。

なお、仮に 3 月が経産省補正値どおりの結果（前月比▲0.3%）となれば、1-3 月期は前期比▲2.3%となる。2 四半期連続の減産は必至の状況だ。続く 4 月の生産予測指数では大幅な増産が見込まれるものの、海外経済の減速や IT 需要の一巡によって輸出も弱含んでいることから、生産を取り巻く環境も厳しい。主力である自動車生産についても、供給制約の悪影響が和らぎつつある一方で、欧米を中心とした海外需要の減少との綱引きとなる可能性が高く、順調な回復は見込みがたそうだ。景気減速懸念が根強い世界情勢を踏まえると 4-6 月期も楽観視できず、当面は弱含みの状況が続くだろう。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。